

仙川水辺環境整備基本計画（仙川リメイク）の評価と今後の方針について

概要版

1

仙川水辺環境整備基本計画の概要

(1) 仙川水辺環境整備基本計画とは

仙川は、小金井市貫井北町三丁目に源を発し、武蔵野台地の南部を南東に小金井市、武蔵野市、三鷹市、調布市を経て世田谷区鎌田付近で野川と合流する一級河川であり、管理は東京都となっています。仙川は、玉川上水や千川上水とならび、武蔵野市における貴重な水辺空間ですが、コンクリート三面張の構造で水がほとんど流れていなか

ったため、植物も生育しにくい環境となっていました。そのため、川の流れを復活させ多様な動植物の生息・生育空間の確保を目指し、市民の意見や要望を踏まえて、平成10（1998）年7月に仙川水辺環境整備基本計画（以下「仙川リメイク」）を策定しました。

計画策定以降は、市の重点事業として整備を進めてきました。

(2) 仙川リメイクの基本的な考え方と目標

基本的な考え方

①水を楽しむ

②歩を楽しむ

③花を楽しむ

④隣接地と一緒に楽しむ

水に関する整備目標

	短期目標	長期目標
水量	昼間 1.5ℓ/s / 每秒 夜間 0.5ℓ/s / 每秒	35ℓ/s / 每秒
水質 (BOD*)	5.0mg/l以下	2.5mg/l以下
整備イメージ	メダカのすめる仙川	タナゴのすめる仙川

* BOD：水の流れを微生物学分解するときに使う酸素の量を指し、数値が大きいほど汚れがひどいことを示します。
一般に魚が棲めるBODは5.0mg/l以下とされています。

(3) ゾーニングと整備状況



◎市域の仙川の延長3,415mを4つにゾーニング（自然生態系復活ゾーン、親水ゾーン、川の道ゾーン、水辺景観形成ゾーン）しています。

◎令和2（2020）年3月時点での上流部の自然生態系復活ゾーンは完成しており、整備済みの延長は1,013mで市域の整備率は約3割となっています。

仙川リメイクの評価

(1) 環境に関する社会動向

仙川リメイク策定後から現在に至るまで、社会が求める緑や水の役割が変化しています。

持続可能な開発目標（SDGs※）の推進 [国際社会]		生物多様性などの環境保全
グリーンインフラ※の推進	[内閣府、国交省]	社会的課題を、自然環境が有する機能で対応
都市づくりのグランドデザイン	[東京都]	水辺を楽しめる都市空間の創出
「未来の東京」戦略ビジョン	[東京都]	水辺を核に、ゆとりと潤いに溢れたまちをつくる
武藏野市第六期長期計画	[武藏野市]	生態系ネットワーク・人と生物の暮らしの調和
武藏野市緑の基本計画 2019	[武藏野市]	緑と水辺を良好に守り育むための長期的な維持管理

※ SDGs：持続可能な開発目標。平成27(2015)年9月に国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するために、環境問題への対策など17の目標が示されています。

※ グリーンインフラ：自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める取組みを示します。

(2) 仙川リメイクの実績評価

仙川リメイクの基本的な考え方による評価

①水を楽しむ

◎仙川リメイク策定後に、東京都水道局境浄水場と市立第二浄水場からの送水が実現し、現在では水辺が育む様々な生物の生息環境が形成されています。目標の水量には達していないものの、水質は長期目標値を満たしています。



最上流部の吐出口

②歩を楽しむ

◎仙川沿いには、桜並木や団地内の緑が連続しており、水と緑の軸の玉川上水や亞細亞大学などの緑の拠点を結ぶネットワークが形成されています。



花の通学路を結ぶ桜並木

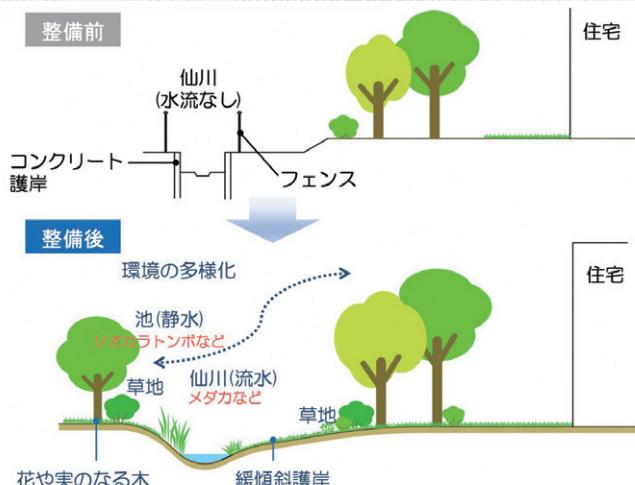
③花を楽しむ

◎仙川と隣接部で実施した生物調査結果（平成30（2018）年）では、植物約160種、昆虫類約80種、他魚類や鳥類などが確認されました。水辺を生息環境とする動植物も多く含まれており、多様な自然環境が形成されていることがわかります。また、仙川沿いには団地内も含めて桜や花木が多く植栽されており、四季の変化を感じられることや、人々が自然と触れ合うことができる場となっています。

仙川沿いを散歩する人々



自然観察活動



④隣接地と一体的に楽しむ

◎仙川と公園が隣接する場所はフェンスなどを設けずに、緩やかな斜面で連続する整備を行った結果、一体的な緑地空間を形成することができます。



仙川と桜堤公園

◎地区計画により仙川周辺の民間集合住宅に広場の設置が義務付けられたことで、道路歩道との連続性が高まり、オープンスペースの充実化に繋がりました。

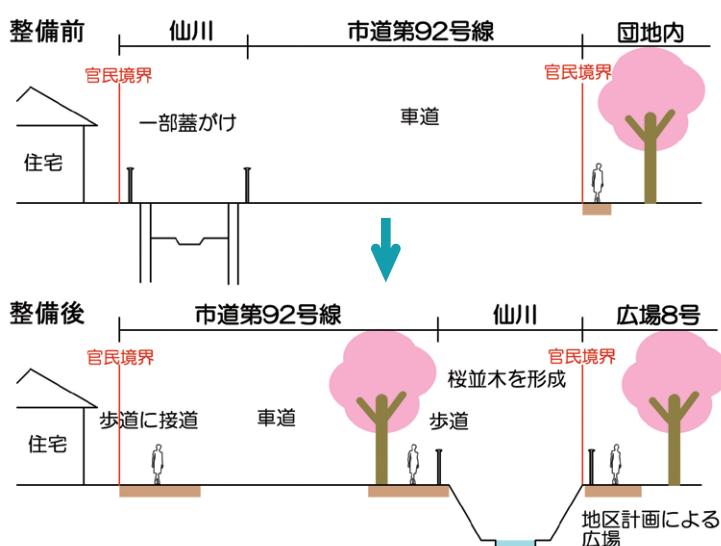


民間集合住宅の広場

まちづくりとしての評価

◎仙川上流付近では、「桜堤地区 地区計画」に基づく仙川と市道第92号線の付替えによって、次のようなまちづくりが実現しました。

- 市道第92号線旧桜二の橋付近のクランクが解消され、交通の安全性が向上した。
- 河川に面していた住宅が歩道に接した。
- 地区計画により仙川沿いにオープンスペースが整備され、河川と一体的な歩行空間が創出された。
- 河川の蓋掛けがなくなり、良好な街並み景観が形成できた。



市道第92号線桜二の橋付近の整備前・整備後



3

現状の課題

(1) 仙川全体の課題

河川維持水の減少

◎河川維持水を送水している東京都水道局境浄水場は、ろ過システムの改修計画を策定中であり、ろ過システムの変更内容によっては、導水量が大幅に減少する可能性があります。

現状でも水量が減少傾向にあり、これ以上の導水量の減少は、水辺の生物にとって非常に厳しい環境になります。また、今ある水量を最大限に有効活用する整備の検討が必要です。



水が枯れた状態

(2) 整備済み区間の課題

河川施設の老朽化

◎限られた河川維持水を有効に活用するためには、老朽化した施設への対応や水を維持できる構造へ改修するなどの検討が必要です。

◎貴重な水辺環境を良好に維持していくために、河川維持水の減少に対応した管理手法の検討が必要です。

(3) 未整備区間の課題

不足する河川維持水

◎河川維持水が不足している現状では、未整備区間まで水が到達していません。仙川の親水化整備は「流れを復活」することを目的としていることから、現状の水量では整備の効果が得られない状況です。

施工の課題

◎未整備区間には限られた河川区域内での護岸や橋の改修、住宅間近での工事など施工や工事費の面でも課題があります。

4

今後の方向性

(1) 基本的な考え方

◎今後も基本的な考え方は継続していきます。

(2) 整備済み区間について

生物環境の維持

◎水量の減少に対応

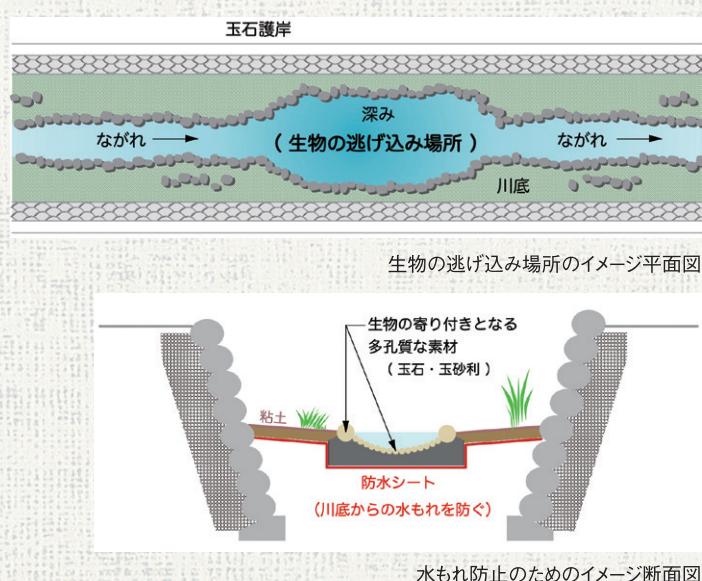
水辺の生物の生息域を確保するために、一部区間の水深・川幅を改修して逃げ込める場所をつくるための検討を行います。

◎老朽化に対応

木杭などの老朽化への対応や、限られた水を維持できるよう改修方法を検討します。

選択的植物管理

◎強健種の生育範囲をあらかじめ決めておき、在来種など残していくたい植物については刈り取らないなど、選択的な植物管理手法を検討していきます。



魚類・川底にいる生物への配慮

◎清掃などの際は、水中に生息しているメダカなどの生物を除去しないよう十分な注意を払い、生物の保護に留意します。

(3) 未整備区間について

事業の休止

◎未整備区間には様々な課題があることから、十分な水が確保されるまで、親水ゾーンからの下流域については整備を休止します。

(4) 今後について

◎様々な課題の解決策の見込みが立つまでは、良好な水辺空間として整備してきた仙川を保全していきます。

仙川水辺環境整備基本計画(仙川リメイク)の評価と今後の方向性について【概要版】

令和2年3月発行

発行 …… 武蔵野市 〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2-2-28

編集 …… 武蔵野市環境部緑のまち推進課 ☎ 0422-60-1864